Vol.66
2025.10 秋号

地域のみな様と、私たちをむすぶ広報誌

京都中部総合医療センター
Kyoto Chubu Medical Center

令和７年度 地域医療教育推進事業
京都府立医科大学医学部・医学科より 17 名、看護学科より 10 名の学生に参加いただきました。

CONTENTS

■院長挨拶 …… ①
■令和７年度地域医療教育推進事業 …… ③
■病院機能評価認定更新のお知らせ …… ③
■診療科紹介 病理診断科 …… ④
■診療科紹介 放射線科 …… ⑤
■京都中部総合医療センター看護専門学校 …… ⑥
■認定看護師セミナー …… ⑦
■働き始めて …… ⑦
■世界糖尿病デー …… ⑨
■ベストウェイト外来開設 …… ⑨
■優秀演題に選出されました …… ⑩
■MRI 脳ドックを新設しました …… ⑩
■第 27 回京都中部総合医療センター学術集会 …… ⑪

地域医療支援病院　紹介受診重点医療機関　臨床研修病院
救急告示病院　日本医療機能評価機構認定病院
地域がん診療病院　第二種感染症指定医療機関
地域周産期母子医療センター　へき地医療拠点病院
京都府地域リハビリテーション支援センター
京都府災害拠点病院（地域災害医療センター）
DMAT 指定医療機関　認知症疾患医療センター
エイズ拠点病院　京都府難病医療協力病院

京都中部総合医療センター
〒629-0197 京都府南丹市八木町八木上野25番地
TEL 0771-42-2510㈹　FAX 0771-42-2096
https://www.kyoto-chubumedc.or.jp

京都中部総合医療センター広報誌

2025.10
Vol.66
秋号

病院の理念

地域の拠点病院として、患者さん中心の良質な医療を行い、地域に愛され信頼される病院を目指す。

病院の基本方針

1. 常に患者さんの立場にたち、権利を尊重して適切な医療を行います。
2. 地域医療支援病院として、地域の医療・介護・福祉等と連携しながら、専門診療を推進して地域完結型医療の中心的役割を担います。
3. 第二種感染症指定医療機関として、二類感染症もしくは新型インフルエンザ等感染症に対応した医療を提供します。
4. 救急医療、周産期・小児医療、災害医療を充実させ、いつでも安心して受けられる医療を提供します。
5. 地域がん診療病院として、集学的医療を推進し、高度ながん医療を行います。
6. 働き方改革を推進するとともに、チーム医療を強化し、医療の質・安全性を高めるため、すべての職員の資質向上に努めます。
7. 公営企業としての役割を全うするため、経営効率を高め、健全経営を遂行します。

患者さんの権利と責務

私たちは患者さんの権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。

1. 説明を受ける権利
2. 治療を選択する権利
3. 情報を知る権利
4. 個人匿報の保護を受ける権利
5. 他の医療機関の医師の意見（セカンドオピニオン）を求める権利
6. 自分の健康情報を正確に提供する責務
7. 説明を理解するまで問う責務
8. 病院での規則に従う責務

2040年に向けた地域の医療提供体制に向けた取り組み

院長　辰巳（たつみ）　哲也（てつや）

今年も本当に厳しい暑さが続く夏でした。8月5日には群馬県伊勢崎市で41.8℃の観測史上最高気温を記録するなど、日本国内で40℃を超える地点が多く観測されました。一方で、8月11日には熊本県の7つの市と町に大雨の特別警報が発表され、浸水や土砂災害による被害も出ました。9月に入りようやく夏の終わりを感じるようになり、病院の周りでは稲穂が実って稲刈りが始まっています。黄金色に輝く稲穂の周りには、彼岸花が咲き始めましたが、開花が遅れており気候変動を身近に感じざるを得ません。

医療法等の一部を改正する法律案が閣議決定されました。高齢化に伴う医療ニーズの変化や人口減少を見据え、地域で良質かつ適切な医療を効率的に提供する体制を構築するため、1）地域医療構想の見直し、2）医師偏在是正に向けた総合的な対策、3）医療DXの推進が改正案の骨子となっています。特に「2040年を見据えた新たな地域医療構想」では入院医療だけではなく、外来・在宅医療、介護との連携、人材確保等を含めた地域の医療提供体制全体の課題解決を図る新たな地域医療構想の策定が求められ、この南丹医療圏での病床機能区分を報告するとともに、医療機関機能（高齢者救急・地域急性期機能、在宅医療等連携機能、急性期拠点機能、専門等機能、医育及び広域診療機能）を互いに認識して、病院間での役割分担・連携強化が益々求められる時代となると思います。また、電子カルテ情報共有サービスを構築して普及させるとともに、医師少数区域等でのオンライン診療を進めていく必要性も感じています。人材確保が難しくなる時代に向けて、かかりつけ医の先生方はもちろん、医療介護職の皆さまとさらなる顔の見える関係構築に努力していきたいと願っております。

8月25日から28日にかけて、京都府立医科大学医学科5回生の医学生と看護学科3回生の看護学生の合計27人をお預かりして、地域医療教育推

進事業を行いました。今年も院外実習として美山町と京丹波町を訪問し、地域の患者さんを通して地域包括ケアシステムのあり方を学び、健康体操教室などを体験して健康を大切にする町の取り組みや住民の皆さまの思いを学びました。実習を体験した学生たちが患者さんの抱える課題と解決案を真摯に考え、患者さんにとって最も適切な診療方針を決定し、それを実行できる医師・看護師に成長してくれることを強く願っています。開業医実習も含めてご協力いただきましたすべての方々とスタッフに心からの感謝を申し上げます。

9月27日には京都中部総合医療センター学術集会を開催しました。9題の一般演題発表の後、京都府看護協会会長の豊田久美子（とよだくみこ）先生に「専門性の希求と誇り」と題して特別講演を賜りました。保健師助産師看護師法によって看護師とは療養上の世話または診療の補助をする者と定義されていますが、先生はナイチンゲールやヘンダーソンの言葉を引用され、看護は一つのアートであり、個々の患者に応じた適切な看護師＝患者関係を形成するための分析・訓練を必要とするサイエンスである、また看護の専門性の持つ意味とは特定の分野の知識・経験・技能を指すだけではなく、患者一人ひとりの個性を尊重し、患者に合った最善のケアを提供することで、人間の尊厳・その人らしさ・QOLを守る技能を実践する能力であると教えていただきました。

令和6年診療報酬改定後の病院経営は相変わらず誠に厳しい情勢です。全国自治体病院協議会が報告した令和6年度の決算状況調査結果によると経常損失を生じた会員病院の割合は86%であり、医業損失を生じた会員病院の割合は95%に及びました。人件費高騰、材料費・薬品費・燃料費高騰が続いていますが、公定価格である診療報酬がこれに対応しておらず、医業収益を上回る医業費用の伸びにより赤字が生まれている現状であり、病院の経営努力のみでは対応することが困難な状況となっています。令和7年度の人事院勧告を考慮すると経営環境はさらに厳しくなると危惧しています。先日、6病院団体が厚労大臣に緊急要望書を提出しましたが、経営改善のためにも補正予算による支援策とともに次期改定では10%越えの診療報酬改定を強く求めていきたいと存じます。

秋はおいしい食材が豊富な季節です。皆さまの秋が爽やかで実り多きものでありますように心よりお祈り申し上げます。

令和７年度地域医療教育推進事業

臨床研修管理委員会副委員長・消化器内科部長　金政（かねまさ） 秀俊（ひでとし）

京都府立医科大学医学科 17 名、看護学科 10 名の計 27 名の学生が来院し８月 25 日から４日間、当院で地域医療についての実習をしました。初日は病院長、副管理者の挨拶と病院及び当地域の紹介から始まり、午後は美山林健センター診療所所長の西岡大輔（にしおかだいすけ）先生の地域医療についての講演と、訪問看護ステーションこころの中尾美千代（なかおみちよ）様の終末期訪問看護についての講演がありました。夜のレセプションには西村良平（にしむらりょうへい）南丹市長、田中雅樹（たなかまさき）南丹保健所長にもご参加いただき、京都府立医科大学生への激励のお言葉をいただきました。学生と当院職員の親交を深めることができました。

２日目には美山コースと京丹波町コースの２班に分かれ、院外で実習しました。美山コースでは午前にみやま診療所を見学し、地域見学や地域住民との座談会、体操教室参加、特別養護老人ホームの見学など多くの実習を行いました。京丹波町コースでは午前に地域の健康体操教室に参加し、午後は 95 歳の住民の方のお話を聞かせていただき、特別養護老人ホームと和知診療所の見学をしました。両コース共に、学生が住民の方々と交流できた貴重な時間でした。

３日目には管内の診療所と訪問看護ステーションの計 17 カ所にそれぞれ学生が行き、実習を行いました。午後からは各実習先で感じた内容を発表してもらいました。普段見ている大学病院との違いを実感できる実習となりました。

美山コース

京丹波町コース

最終日には看護部から地域連携・退院支援、皮膚・排泄ケア、腎センターでの取り組みについて説明がありました。最後に、全実習を通して地域医療についてどのように感じたか、今後どのようにすれば良いか、課題などについて発表してもらい、当院スタッフと総合討論を行いました。今回の実習を通して学生が地域医療についてたくさんの事を学んでくれたことが実感できました。

来年度以降も実習プログラムを充実させて、学生のみなさんに少しでも当地域の医療に関心を持ってもらえるよう努力していきたいと考えています。最後に、本実習にご協力いただきました全ての方々に、この場をお借りして御礼申し上げます。

病院機能評価認定更新のお知らせ

このたび当院は、令和７年８月 22 日付をもちまして、公益財団法人日本医療機能評価機構による「病院機能評価（3rd Ver3.0）」の認定を取得いたしました。平成 21 年の初回認定より数え、今回で４度目の栄誉となります。

本評価は、患者さん本位の質の高い医療が実践されているか、そのための組織体制が機能しているか等を、専門の調査員が多角的な観点から厳正に審査するものです。

私どもはこの結果に満足することなく、認定を新たな出発点と捉え、審査を通じて得た貴重な示唆を基に、これからも絶えず業務の改善に努めて参ります。今後とも、地域社会の皆様から深く信頼される病院であるべく、職員一同、より一層質の高い医療の提供に邁進いたします。

病理診断科

病理診断科部長　伊東 恭子（いとう きょうこ）

病理診断科は、患者さんより採取された生体材料を病理学的に評価する医行為：病理診断を行っています。病理診断には生検などによる組織診断、手術材料の外科病理診断、細胞診断、術中迅速診断、病理解剖などが含まれます。

スタッフは、常勤医の部長１名と２名の非常勤病理医、常勤臨床検査技師３名、非常勤臨床検査技師１名よりなり、３名の病理医は日本専門医機構認定病理専門医で、内２名は日本病理学会認定分子病理専門医、日本臨床細胞学会認定細胞診専門医です。

活動の実績

1. 生検による組織診断

目的は、腫瘍、炎症性疾患、代謝疾患などの確定診断です。手技として、生検（内視鏡など）や外科的切除で採取された諸臓器組織（消化管、肝胆膵、呼吸器、泌尿生殖器、皮膚など）が対象となります。近年では、腫瘍のコンパニオン診断として、各種の分子標的薬の適応を決める分子診断（HER2、CLDN18、MMR、PD-L1など）を胃癌・大腸癌、乳癌で施行しています。

2. 外科的手術材料の病理診断

外科的に切除された臓器の肉眼的、組織学的診断を行います。癌の組織学的診断に加え、癌に遺伝子発現異常があり分子標的治療が可能であるかなどを明らかにします。1. 2. を合わせて、年間 3,500 件、診断までの所要時間は、生検で１週間、外科材料で２週間を目指しています。

3. 細胞診断

目的は、主として癌のスクリーニング診断；陽性、陰性、疑陽性の判定、クラス分類です。乳腺、喀痰、気管分泌物、尿、胸水・腹水などの体腔液が対象です。出張迅速細胞診断（rapid on-site cytologic evaluation: ROSE）として、当科が内視鏡室へ出張し、超音波内視鏡下で採取された検体に、目的の細胞がとれているか否かを顕微鏡で確認するようにしています。年間 3,200 件です。

4. 術中迅速組織診断

術中に採取された検体（細胞、組織）を用いて病理診断を行い、手術方針の決定に寄与しています。2023 年２月に、がんリンパ節転移検査（OSNA™ 法）を導入し、乳癌のセンチネルリンパ節転移の有無を確認するために用いています。細胞、組織診断を含め年間 100 件程度です。

5. 病理解剖

目的は、不幸にして亡くなられた患者さまの病態を明らかにするものです。2025 年４月に、当院の病理解剖室が再整備され、原則的に平日の８時 30 分から 15 時まで受付をしています。病理解剖後は、臨床病理カンファレンスを行い、臨床症状・診断・治療の面での問題点を解決し、治療効果判定を行なうことで、病態解明、臨床へのフィードバックにつとめています。

6. 臨床各科との症例検討：１か月に１度の頻度で行っています。

放射線科　南丹医療圏の放射線医療を支える中核拠点として

放射線科部長　西村 元喜（にしむら もとき）

当院は南丹医療圏において唯一の常勤放射線科医が勤務する医療施設であり、放射線診断と治療の両面から地域の皆様の医療を支えています。

現在４名の常勤放射線科医師が在籍しており、全員が放射線診断専門医・指導医の資格を保有し、１名は核医学専門医・指導医および PET 核医学認定医の資格を取得しています。毎週水曜日には、画像下治療（Interventional Radiology；IVR）を専門とする IVR 専門医を招聘し、IVR を行っています。放射線治療については非常勤の放射線治療専門医５名が交代制で外来診療を担当しています。南丹医療圏で唯一のリニアック（放射線治療）装置を備えた施設として、根治照射から緩和ケアまで幅広く対応しており、診断から治療まで一貫した放射線診療が実施できる体制を整えています。

1. 診療体制とスタッフ構成

当院放射線科は「診療部放射線科」（常勤放射線診断専門医４名と非常勤専門医６名）と「放射線技術科」（診療放射線技師 20 名、非常勤医学物理士２名）から構成されています。診療チームには、放射線診断専門医、核医学専門医、IVR 専門医、放射線治療専門医、医学物理士、X 線 CT 認定技師、磁気共鳴専門技術者、核医学専門技師、検診マンモグラフィ管理・撮影認定技師、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師、放射線治療専門放射線技師などの多種多様な専門資格をもつスタッフが揃っており、24 時間 365 日の救急対応を含む診療体制を支えながら、品質管理、被ばく線量モニタリングなどにおいても万全の安全管理体制を構築しています。

2. 画像診断部門：精密・高品質な画像診断の提供

画像診断機器として、64 列 MDCT スキャナ１台、1.5T MRI 装置１台、3.0T MRI 装置１台、SPECT 装置１台、血管造影装置２台、X 線 TV 装置２台、一般撮影装置６台、デジタルマンモグラフィ撮影装置１台、骨密度計測装置１台を備えています。

2023 年に更新されたデジタルマンモグラフィ撮影装置はトモシンセシス撮影に対応しており、乳腺組織の重なりを排除して病変を検出することが可能です。従来の 2D 撮影に加えてトモシンセシス撮像を行っても、被験者の放射線被曝を合計 2mGy 以下に抑えることが出来ますので、マンモグラフィ検診等で積極的にご活用いただければと思います。

画像診断部門では、CT・MRI・核医学検査などによる精密な評価に加え、各種の動脈塞栓術、バルーン下逆行性経静脈塞栓術、動注化学療法、CT ガイド下マーキング・生検・ドレナージなどの手術と比較して低侵襲な検査・治療を実施することも可能です。

3. 放射線治療部門：がんに対する根治療法から緩和療法まで

当院は南丹医療圏で唯一、リニアックを備えた放射線治療施設です。放射線治療は痛みが少なく、高齢者や手術困難な患者様にも安全に提供可能であり、他の治療と組み合わせることで、集学的ながん治療の一翼を担っています。当院では乳癌・前立腺癌・肺癌・頭頸部癌などを対象とする根治照射を行うほか、骨転移や脳転移に対する緩和照射も行っています。予約制の外来は月曜日～金曜日までの全ての診療日に設定されており、迅速な治療計画の作成と照射が可能です。

4. 地域医療連携

当院では、地域医療連携室を通じて、CT 検査、MRI 検査、核医学検査、放射線治療外来の予約を承っております。放射線治療外来に関しては主診療科の外来と併せてのご紹介、IVR に関しては主診療科の外来経由でのご紹介をお願い申し上げます。今後も当院は積極的に最新の画像診断装置・放射線治療装置を導入し、地域の皆様に低侵襲かつ高品質な画像検査および放射線治療、信頼性の高い画像診断レポートをご提供できるよう努めてまいります。患者様の最善の治療選択の一助となれましたら幸いです。どうぞお気軽にご相談、ご紹介ください。

京都中部総合医療センター看護専門学校

「3年生の実習での学び」

3年生　西村（にしむら） 昊陽（こうよう）

3年生の実習は1、2年生の時と比べてより深く患者さんの看護に関わっていきます。また専門領域の看護を学ぶため、領域ごとに看護の新しい視点や考え方を学べる体験をさせていただいています。日々の患者さんとの関わりを通して看護の技術だけではなく、自身を振り返ることで自分の成長を感じることができています。これからも多くの体験や学びを吸収して看護に自信が持てるよう頑張っていきます。

「保育施設実習での学び」

2年生　片山（かたやま） 笑花（えみか）

小児看護学で、保育施設実習を行いました。3歳児から5歳児の発達段階に応じた関わり方や、安全・安心な環境づくりの重要性を学びました。また、健康指導として絵や道具を使って子ども達にわかりやすいように歯磨きの大切さを伝えました。子ども達の反応から、遊びを通じて楽しみながら行うことで、健康を支える支援の在り方や子どもの思いに寄り添う姿勢の大切さを学びました。この学びを病棟での実習に活かしたいです。

「初めての実習の学び」

1年生　今西（いまにし） 夏海（なつみ）

今回の実習では、環境整備とコミュニケーションを行いました。病室の環境は慣れている学校のベッド環境と違いスムーズに環境整備は出来ませんでしたが、患者さんの状態を理解し、その人に合った安全、安楽な環境を作ることの必要性を学びました。

コミュニケーションでは難聴の患者さんには声の大きさだけでなく、話の間の取り方を工夫することやジェスチャーを用いた非言語的コミュニケーションを使うことが円滑な意思疎通につながることを学びました。

京都中部総合医療センターの
看護師

私たちと一緒に働きませんか？共に働く仲間を歓迎します！

副看護部長
松岡（まつおか） 美代子（みよこ）

認定看護師セミナー

当院では認定看護師や特定看護師から、院内でセミナーを受けることができます。

受講は、当院の看護師なら誰でも申し込むことができますが、ラダー別の教育プログラムにも組み込まれています。７月８日には、当院の緩和ケア認定看護師の碓井寛子師長より「寄り添う力を育てる― ACP と家族支援の視点から―」という内容で、がんの患者の看護を学びました。参加者たちからは、「具体的な話を聞くことが出来、自分の看護を振り返り、これから新しい気持ちで患者さんに向き合えそう」などの感想がありました。これからも年間を通して何人もの認定看護師・特定看護師の話を聞くことができます。看護の質が高く深く、看護が楽しくやりがいのあるものになっていくのが楽しみです。

＼働き始めて／

＼働き始めて／

第二病棟２階東看護師　藤本（ふじもと） 大智（だいち）

就職して１年の半分以上が過ぎました。私は眼科・耳鼻科・内科の混合病棟で働いています。ここでは急性期も慢性期も学ぶことができると思い希望しました。今は軽症の方を担当しながら眼科の手術患者の看護を学んでいます。

学生の頃とは違い、カルテからの情報のとり方や観察の視点など難しいことが沢山あり、覚えることの難しさと楽しさを感じています。先輩の腕をかり、色々教えていただいて採血なども出来るようになり、他にも一人でできることが増えてきたことが嬉しいことです。

これまでに５年間、ケアワーカーとして働いた経験は、今とても役に立っていますが、「ケアワーカーと看護師は全然違うんだ」ということも痛感しています。私の目標は診療看護師の資格を取り病院に貢献することです。今後は、救急救命士の資格も生かせることができたらと思います。経験していないことがまだまだあるので、これからも研鑽を積み頑張っていきたいと思います。

\働き始めて/

診療部　研修医　狭間（はざま） 智子（ともこ）

私は大学時代、当院での実習で担当の先生やコメディカルの方々から丁寧な指導を受けたことが印象的でした。ご縁があり今年の４月から研修医としてお世話になっております。

まだまだ未熟な部分が多くご迷惑をおかけしてしまっていますが、皆さんが指導してくださる中で少しずつ出来ることが増えていくのが楽しい反面、自分の選択や手技が患者さんに与える影響の大きさを実感し怖くなる場面もあり勉強不足を痛感する日々です。

特に、当直では短い時間の中で問診や身体所見から必要な情報を集めたり、緊急性を見極めて指導医の先生にプレゼンをしたり、自分から患者さんに説明したりする機会が多く、緊張感もあり上手くいかないこともありますが、指導医の先生方やコメディカルの方々のアドバイスやフォローのおかげで多くのことを学べています。今は検査や治療、業務など教えていただいてばかりですが、１日でも早く医師として頼れる存在になれるよう努力していきたいです。

最後に、２年目の研修医の先輩方・同期には業務の中で出てきたちょっとした疑問や悩みを気軽に話せたり、自分が出来ていないことや考えてもいなかったことまで考えて診療している姿を見て刺激を受けているという点でも、私にとってとても大きな存在です。これからもお互いに切磋琢磨して成長していきたいです。

\働き始めて/

薬剤部　薬剤師　山野（やまの） 光（ひかる）、野々口（ののぐち） 直子（なおこ）

この春から病院薬剤師としての第一歩を踏み出しました。まだまだ分からないことも多く、日々学ぶことばかりですが、患者さんの安心・安全な治療を支える薬剤師として、誠実に、そして丁寧に業務に取り組んでいきたいと思っています。先輩方から多くのことを吸収しながら、少しずつでも着実に成長し、信頼される薬剤師を目指して努力して参ります。一日でも早く力になれるよう、２人で切磋琢磨しあい、真摯に取り組んでいきたいと思います。

\働き始めて/

臨床工学科　臨床工学技士　宮森（みやもり） 須弥子（すやこ）

まだ働き始めて数ヶ月ですが、当院が地域の方々から大切にされていることを日々肌で感じており、改めて当院で新社会人としての一歩を踏み出せたことを嬉しく思います。

この数ヶ月で少しずつできることが増え、患者さんや一緒に働く職員の方々から感謝の言葉をいただくこともあり、そのたびに大きな励みとなっています。

今後も同期と助け合い、励まし合いながら、先輩方のように患者さんや職員の方々に信頼され、頼られる臨床工学技士になれるよう努力を重ねてまいります。

内分泌・糖尿病・代謝内科　医長　馬場（ばんば）　遼（りょう）

世界糖尿病デー

世界規模で糖尿病患者数が増大している中、IDF（国際糖尿病連合）により毎年 11 月 14 日は「世界糖尿病デー」に指定されており、世界各地で糖尿病の予防、治療、療養を喚起する啓発運動を推進することを呼びかけられています。2006 年には国連により公式に認定され、世界各地で様々なイベントが開催されます。

当院も世界糖尿病デーのイベントを院内で開催してきており、2022 年からは JR 八木駅のブルーライトアップや街頭での啓発活動など活動をひろげています。今年も 11 月 14 日（金）に JR 八木駅をブルーライトアップすると共に、同駅からウォークラリーを実施し八木町内を散策して回るイベントを計画しており、ウォークラリーのゴールとなる八光館では暖かい食べ物もご用意しております。また同日の午前中には院内にて血糖測定体験や栄養相談などの糖尿病啓発イベントも行っております。

皆様とってに少しでも糖尿病への理解が深まれば幸いです。奮ってご参加ください。

ベストウェイト外来開設

当院では 2025 年 4 月より肥満症治療に対しての専門外来である「ベストウェイト外来」を新規開設いたしました。奇数週（1･3･5 週）の火曜日午後（14 ～ 17 時）に開設しており完全予約制とさせていただいております。

肥満症は慢性疾患の一つであり、メタボリックドミノで提唱されているように糖尿病や高血圧、脂質異常症、さらには心血管疾患や慢性腎臓病など、さまざまな生活習慣病のリスクを高めることが明らかになっています。

当院は日本糖尿病学会や日本循環器学会の教育研修施設であり、最適使用ガイドラインに則って、セマグルチドやチルゼパチドといった肥満症治療薬を使って治療することが可能です。これらの薬剤は、医学的に肥満症と診断された方に対して、半年以上の食事療法・運動療法による生活習慣改善を行ったうえで、十分な効果が得られなかった場合に限り処方対象となります。なお、当外来での薬剤処方は、あくまで肥満症による健康障害を軽減するための医学的治療を目的としたものであり、美容目的や単なる痩身希望による処方は行っておりません。この点について、十分なご理解とご協力をお願いいたします。

肥満症でお悩みの患者様がおられましたら是非一度、ベストウェイト外来の受診をご検討ください。多職種によるチーム医療で個々に応じた最適な治療をご提案いたします。

ベストウェイト外来

お問い合わせ

ＴＥＬ　0771-42-2510（代表）
担　当　医事課
受付時間　午前９時より午後４時まで（土日祝を除く）

紹介状を持参される場合の予約・お問い合わせ

ＴＥＬ　0771-42-5061（直通）
ＦＡＸ　0771-42-5071
担　当　地域医療連携室
受付時間　午前８時 30 分より午後８時まで（土日祝を除く）

優秀演題に選出されました

医療安全管理室副室長　関本（せきもと） 充代（みちよ）

このたび、 第 62 回全国自治体病院学会において、当院医療安全管理室の発表が優秀演題に選ばれました。1,500 を超える演題の中から優秀演題として選出いただきましたこと、大変有り難く光栄に存じます。日頃より当院の医療安全活動にご理解、ご協力いただいている皆様に心より感謝申し上げます。

今回発表したテーマは「安全で確実な心電図モニタリングを実践するための体制構築に向けた現状評価」です。心電図モニタとは、心電図の波形を連続して測定し、異常をいち早く察知するための重要な医療機器です。当院ではこの心電図モニタを安全かつ確実に運用するための体制作りに取り組んでいます。

日本医療機能評価機構によりますと、過去 10 年間で心電図モニタに関連した医療事故が全国で 41 件あったと注意喚起を呼びかけています。これらの事故の背景には、機器の不適切な使用や設定ミス、アラームへの対応遅れなど様々な要因が考えられます。医療に人が関わる以上、医療事故は無くなりません。しかし、私達医療従事者は事故を未然に防ぐための努力と、事故による影響を最小限に抑え、患者さんにより安心して医療を受けて頂ける環境を築くことが私たちの使命だと考えています。今後も医療安全管理者として、地域の皆様に安心・安全な医療を提供できますよう、職員一同、精進して参りたいと思います。

今回の発表にご尽力、ご協力頂いた関係者の皆様に心より感謝申し上げすとともに、これからも医療安全活動にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

MRI 脳ドックを新設しました

～「気になる」を「安心」に変えるために～

2025 年 7 月 1 日より、当院では MRI 脳ドックの単体コースを開始いたしました。

これまで人間ドックのオプションとしてのみ提供しておりました本検査を独立したコースとしてご利用いただくことで、より多くの方々に受診の機会を提供できるものと考えております。

脳ドックとは、脳の健康状態を詳しく調べるための専門的な検査です。MRI（脳実質の画像）や MRA（脳の血管画像）といった画像検査を用いて、脳梗塞や脳動脈瘤、脳腫瘍などの異常の有無を確認します。こうした疾患は、初期には自覚症状が出にくく、気づいたときには進行していることも少なくありません。そのため、定期的なチェックがとても大切です。

「最近もの忘れが気になる」「血縁者に脳の病気をした人がいる」「健康診断では脳の検査が含まれていなかった」といった方にとって、脳ドックは“安心材料のひとつ”となるはずです。また、高血圧・糖尿病・脂質異常症といった生活習慣病をお持ちの方も、脳卒中のリスクが高まる傾向にあるため、受診をおすすめしています。

検査は予約制で、撮影時間は 15 分程度で終了します。検査結果は後日、レポートとして受検者様に郵送させていただきます。撮影は診療放射線技師が担当し、「検査ってちょっと不安…」という方にも、安心して受けていただけるよう、わかりやすく、やさしい対応を心がけております。「磁気共鳴専門技術者」という MRI の専門資格を持った診療放射線技師も 2 名担当しておりますので、専門的なご質問にもわかりやすくお答えさせていただきます。

病気を“見つける”ことも大切ですが、それ以上に、“今の状態を知る”ことが健康づくりの第一歩です。ご自身の健康への気づきと向き合うきっかけとして、MRI 脳ドックをぜひご活用ください。ご家族やご友人ともお誘いあわせのうえ、お気軽にご相談いただければ幸いです。

脳ドック予約
ＴＥＬ　0771-42-2566（直通）
担　当　健診センター
受付時間　午前９時より午後４時まで
（土日祝を除く）

第 27 回京都中部総合医療センター学術集会

学術集会準備委員・眼科部長　伴（ばん） 由利子（ゆりこ）

2025 年 9 月 27 日に、当院第 2 病棟 5 階の講堂において第 27 回京都中部総合医療センター学術集会を開催しました。 一般演題としては例年通り、医師、薬剤師、パラメディカル、看護師、事務局と幅広い職種が、日常の仕事から生じた疑問に対する研究成果を発表しました。また、京都中部総合医療センター看護専門学校の教員からは、より地域に根差した看護師を育てるための様々な取り組みについての報告がありました。

特別講演では、京都府看護協会会長の豊田久美子（とよだくみこ）様に、「専門性の希求と誇り」の演題でご講演頂きました。病院看護師、クリニック勤務、教員生活、そして現在の機関勤務と看護師としての長いキャリアにおいて、様々な気付きがあったことや専門職として誇りをもって働くことの素晴らしさをお話しされ、参加した職員一同、感銘を受けました。

学術集会実行委員

助産師・看護師・ケアワーカー 募集中 !!

令和 7 年度　看護部新入職スタッフと共に

一緒に働く仲間、大募集
新しいこと、極めること、仲間とともに

看護師寮利用できます。（正職員）月額 4,000 円（税込）

詳しくはホームページをご覧下さい。

https://www.kyoto-chubumedc-ns.com/

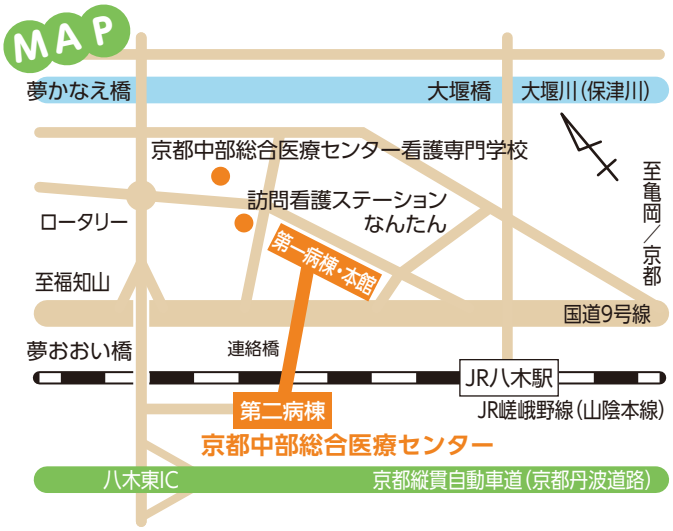
編集後記

今を遡ること 16 年前、病院広報誌第 1 巻が創刊されました。当時は JR 嵯峨野線の複線化工事が着工された頃で、その進捗を渡り廊下を通るたびに眺めていたものでした。病院名変更やコロナ禍の影響で発刊がやや不定期となった時期もありましたが、原則年 4 回の季刊号として発行を継続してきました。記事集め、編集作業に追われ、今年度は 4 月（春）号の次が 10 月（秋）号となりました。やがて季刊号に戻せるように体制作りを進めて参ります。

今後とも、病院から地域への情報発信冊子として広報誌をご愛顧ください。

広報委員会 G.I.

病院スタッフはマスクとゴーグルを着用して業務を行っておりますが、撮影のために一時的に外している場合があります。ご了承下さい。



発行：京都中部総合医療センター広報委員会